

レジリアンス・プロジェクト平成 21 年度研究計画 (Research Plan for FY2009)

1. 氏名/所属: 久米崇/総合地球環境学研究所

2. 具体的な研究課題 (今年度)

- 1) 2004 年 12 月の津波によるインド洋沿岸諸国の Vulnerability と Resilience の分析
- 2) Resilience 概念に関する理論的な考察

3. 具体的な研究内容 (今年度)

これまで、インドの Tamil Nadu における津波の被害調査を実施し、論文を投稿した。投稿論文の Reviewer の 3 人のうち 2 人から、インド洋沿岸地域における津波の被害について review をする必要性を指摘された。これにより、インドの事例だけでなく、先の津波による沿岸諸国の被害と回復とは何であったのかという点にをさらに調査する必要があると気づかされた。これはつまり、津波による沿岸地域に共通する vulnerability と resilience を抽象化する研究に他ならない。そのために 1) レビューを進める、2) 論文の著者にコンタクトを取る、3) 現地を訪れ著者に詳細な聞き取りを行い、そこでの被害、回復、現状を調査する、ことが必要である。これらの研究を通じて、津波というインパクト (disturbance) に対する沿岸地域の vulnerability と resilience の関係を明らかにする。

Resilience とは何か、というその概念に関する考察はレビューを進めることで今年度の研究とする。

4. 今年度末までの達成予定 (上記の課題毎に、何をどの程度明らかにできるか)

- 1) 津波に対する沿岸地域の vulnerability と resilience の関係を明らかにする
- 2) Resilience に関する Bibliography の作成 (WG) と HP への公開を実施する

5. 今年度現地調査予定

- 1) 時期: 10 月以降, 海外渡航×2 回, 計 3-4 週間程度 (インド洋周辺 4 ヶ国程度)
- 2) 目的: インド洋津波の被害地域の回復と現状に関する現地調査
- 3) 内容/準備状況: インド洋沿岸部で津波被害があった地域を訪問し, 回復過程と現状について聞き取り調査を行う。同時に, 被害各国における被害地域における Vulnerability と Resilience に関する研究の動向調査を行う。そのための準備として, 関係論文のレビューを行い, その著者らや現地研究者とコンタクトを取り訪問を実現させる準備を行う。

6. 次年度以降の計画予定概要

(平成 22 年度)

- 1) 津波に対する沿岸地域の vulnerability と resilience に関する論文を投稿する
- 2) Resilience を具現化する抽象的な図形イメージを検討する

(平成 23 年度)

- 1) 理論とフィールドから Resilience とは何かということを研究する

7. 成果発表計画

発表予定学術誌 (学術誌名): 農業農村学会誌 (×1), J. of Env. Man. (×1)

発表予定学会 (学会名・時期): 日本地球惑星科学連合 2009 年大会 (於千葉県幕張メッセ)

ワークショップ等: 予定なし

8. その他 (何かあれば)

- 1) 渡邊科研: トルコ出張 (×2), 8 月 (調査) と 2 月 (WS) に各 2 週間程度
- 2) インダスプロジェクト: インドグジャラート地方 (×1), 6 月に 2 週間程度 (salinity assessment に関する調査の技術指導)